

エージェンシーの発揮を目指す小学校社会科授業の 検証

－小学校４年「犬山川祭の復活を目指して」の単元開発を事例として－

教育実践高度化専攻 教科指導重点コース 言語・社会科学系(社会)

高木 将志

近年、エージェンシーという概念が提唱されている。エージェンシーとは「変化を起こすために、自分で目標を設定し、振り返り、責任をもって行動する能力」と定義される。エージェンシーは、生涯にわたって発揮・育成されるものであり、発達段階や生徒が置かれている状況によって、発揮される姿が異なると考えられる。そこで、本研究では、小学校４年生段階におけるエージェンシーの発揮とはどのような姿なのか、明らかにすることを目的とした。そのために、本実践では地域社会の失われた祭礼の一つである「犬山川祭」に着目して教材化して、実践を行った。実践では、単元を３段階に設定し、それぞれの段階において、エージェンシーが発揮されたのかを検証した。「犬山川祭」の復活を目指して学習を進める過程で、児童はそれまで経験したことない困難や課題に直面した。その結果、「復活は願うが実現性を感じない」というようなジレンマに陥った。しかし、それらに対しても児童は粘り強く取り組んだ。視点を変えながら話し合い、行動を起こし、それらの課題に対して児童なりの解決策を提示した。未知の困難な状況において、自らの知識やスキル、態度や価値観などを総動員して解決に当たる姿に、児童がエージェンシーを発揮していることが見て取れた。そして、そのためには、児童にとって自分のもつ力を発揮しきるような課題を提示することが必要であることが明らかとなった。